


過去問題集

も く じ

◎ソルフェージュの勉強方法について…………… 18

旋律聴音

第 104 回 …………… 21

第 105 回 …………… 22

新曲視唱

第 104 回 …………… 23

第 105 回 …………… 24

◎楽典の勉強方法について…………… 26

楽典（問題）

第 104 回 …………… 28

第 105 回 …………… 31

楽典（模範解答）

第 104 回 …………… 34

第 105 回 …………… 35

ソルフェージュの勉強方法について

楽譜の正しい読み書きは、ぜひ大学入学前に身に付けておきたい能力です。音楽基礎科目認定テストは、専門的な音楽の勉強に必要な音感が一定のレベルに達しているかどうかを見ます。具体的には、聴音では音を聴いて、それを「楽譜に書き表す能力」を、新曲視唱では楽譜を正しく読み「歌い、表現する能力」を見ます。正しい音感を身に付けて、「音を聴いて歌うことが出来れば、楽譜に書き表せる」ことを目標に練習することが大切です。

◎ 音楽基礎科目認定テストのグレード別ポイント

グレード1	<p>音階固有音および易しい変化音による平易なメロディーです。</p> <p>やさしい変化音とは、刺^{ししゅうおん}繍音（補助音とも呼びます）に付く変化音（＃や♭）のことです。刺繍音とは、ソーファ＃ーソのように同じ音の間にはさまれた2度下（または上）の音のことです。全音（長2度）と半音（短2度）の違いを聴き分け、聴音では臨時記号を忘れずに書いてください。グレード1ではC dur（ハ長調）だけなので、音階を正しく歌えるようにして、さらにそれらを聴き分けられるよう練習をしてください。拍子は4分の4拍子と4分の3拍子のみですから、4分音符を基本拍として、正確に拍が打てるようにしましょう。</p>
グレード2	<p>音階固有音および易しい変化音によるメロディーです。</p> <p>グレード2では課題の調性が、C dur（ハ長調）に加えて、G dur（ト長調）、F dur（ヘ長調）、a moll（イ短調）になります。グレード1と同じように、新しい調性の音階を正しく歌えるようにし、さらにそれらを聴き分けることが必要です。また、a moll（イ短調）では、和声短音階・旋律短音階において臨時記号が使われるので注意しましょう。拍子は4分の4拍子と4分の3拍子に新しく8分の6拍子が加わり、さらに、グレード1のリズムに加えていくつかのリズム要素が増えます。また、8分の6拍子は、8分音符3つ分の付点4分音符を基本拍とした2拍子を感じて練習してください。8分の6拍子特有のリズムパターンがあるので、聴音では、聴いたリズムがどのような記譜になるのか判断できるよう練習してください。</p>
グレード3	<p>属調・下屬調の属七の和音などによる変化音が増えます。</p> <p>グレード1・2では刺繍音（補助音）としての変化音がポイントでしたが、グレード3では属調や下屬調の属七の和音として出てくる変化音が出てきます。具体的にはC dur（ハ長調）の中に属調のG dur（ト長調）の音や、下屬調のF dur（ヘ長調）の音が出てきます。新しく加わる調性のD dur（ニ長調）、B dur（変口長調）、e moll（ホ短調）、d moll（二短調）やそれぞれの属調、下屬調の音がすぐに判断できるようにしましょう。短調の場合は属調や下屬調の導音としての変化音も加わるので、臨時記号の多い楽譜になります。書かれた臨時記号の意味を正しく理解して歌ったり、書いたりする必要があります。</p>

グレード1

ハ長調

$\frac{4}{4}$

8小節

グレード2

イ短調

$\frac{6}{8}$

12小節

グレード3

ホ短調

$\frac{3}{4}$

12小節

グレード1

ハ長調

$\frac{4}{4}$

8小節

付点のリズムから始まるので自分が歌おうとする速さをしっかり把握してから歌い始めましょう

同音にはさまれた井井がつく時と、つかない時の区別が出来よう、しっかり練習しましょう

ブレスをしなくなる場所です、軽くせる程度で、その上にはならないように

グレード2

ト長調

$\frac{3}{4}$

12小節

同音にはさまれた井に注意、

乱暴な切り方にならないように

同音にはさまれた井に注意、

3連符は1拍を3等分しましょう

→ コーペーション

同じ小節の井のつく音の戻っているの間違いを、はっきり出しましょう

グレード3

二短調

$\frac{6}{8}$

12小節

リズムの意をはっきりと

同音にはさまれた井と同じ動きである次の⑤もがびの音

前的小節の井がなくなっただけ

下属調(ト短調)の属和音としての井

属調(イ短調)が定律短音階上行形

同音にはさまれた井

半音上がる

非和声 (②への解決を目立たせるためのがび)

※ 定律短音階上行形、二短調のみ井となる

第 104 回 — 旋律聴音 —

グレード1 ハ長調 $\frac{4}{4}$ 拍子 8小節

Musical notation for Grade 1 exercise in C major, 4/4 time, 8 measures. The melody consists of two lines of music. The first line starts with a quarter note C4, followed by quarter notes D4, E4, F4, G4, A4, B4, and a quarter rest. The second line starts with a quarter note C4, followed by quarter notes D4, E4, F4, G4, A4, B4, and a quarter rest.

グレード2 イ短調 $\frac{3}{4}$ 拍子 12小節

Musical notation for Grade 2 exercise in D minor, 3/4 time, 12 measures. The melody consists of three lines of music. The first line starts with a quarter note D4, followed by quarter notes E4, F4, G4, A4, B4, and a quarter rest. The second line starts with a quarter note D4, followed by quarter notes E4, F4, G4, A4, B4, and a quarter rest. The third line starts with a quarter note D4, followed by quarter notes E4, F4, G4, A4, B4, and a quarter rest.

グレード3 二長調 $\frac{4}{4}$ 拍子 12小節

Musical notation for Grade 3 exercise in D major, 4/4 time, 12 measures. The melody consists of three lines of music. The first line starts with a quarter note D4, followed by quarter notes E4, F4, G4, A4, B4, and a quarter rest. The second line starts with a quarter note D4, followed by quarter notes E4, F4, G4, A4, B4, and a quarter rest. The third line starts with a quarter note D4, followed by quarter notes E4, F4, G4, A4, B4, and a quarter rest.

第 105 回 — 旋律聴音 —

グレード 1 ハ長調 $\frac{3}{4}$ 拍子 8 小節



グレード 2 ヘ長調 $\frac{6}{8}$ 拍子 12 小節

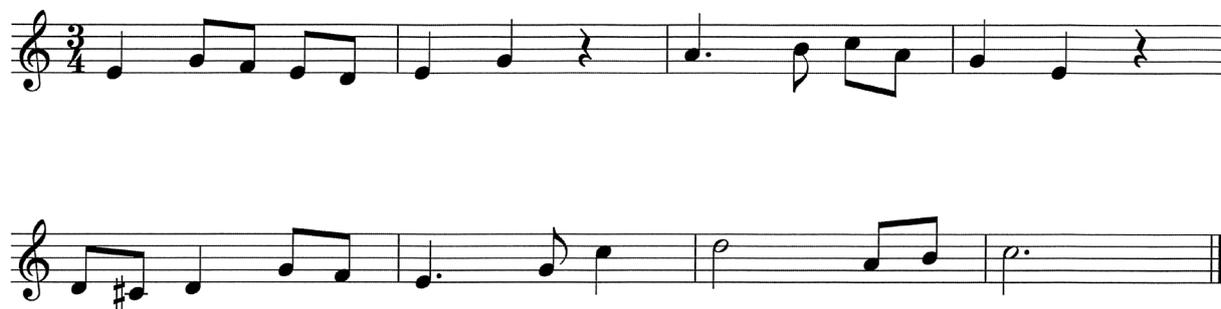


グレード 3 ニ短調 $\frac{4}{4}$ 拍子 12 小節



第 104 回 —新曲視唱—

グレード 1



グレード 2



グレード 3



第 105 回 —新曲視唱—

グレード 1



グレード 2



グレード 3





楽典の勉強方法について

音楽を学ぶにあたっては、どのような種類の音楽であっても、その音楽の基礎的な部分の仕組みを理解しておくことが重要です。

そのためには、まず「楽典」という音楽の最も基礎的な理論の内容を理解し把握することから始めなければなりません。楽典は決して理論のための理論として存在しているわけではありません。どのような理論であっても、理論は音楽と共にあって、その内側を支えています。したがって、楽典の学習は、本来、演奏やレッスン等を通じて音楽とともに自然な形で理解され、習熟の度合いが深められるべきものなのです。

しかし入学者選抜の科目としては、本来の自然な学習形態から離れて、ペーパーテストの形をとらざるを得ません。それでも、楽典の試験問題として、実際の楽曲に基づいて出題されることが多いのは、楽典を理論として孤立させないで、できるだけ楽曲に即した事柄を尋ねたいという出題者の意図の表れのように思われます。試験問題への対応として、解説書や問題集から得られた楽典の知識についても、時間はかかっても、実際の音楽と結びつけ、生きた理論とするための努力が必要です。楽典の勉強は、音楽の仕

組みを理解するために、また、自分の音楽を構築していくために是非とも必要なものですから、どうしても知りたい、理解したいという強い欲求をもって、勉強していただきたいと思います。

楽典の勉強方法として、まず、**テキスト***の理論的な部分を理解することに時間をかけることを勧めます。この勉強をなおざりにして、練習問題に次々と挑戦していくやり方は、決して効率のよい学習方法ではありません。楽典に自信がない人には、特に「音程」の項目から入念に復習することを勧めます。音程は音楽的な理論のすべてに関連する重要な基礎となるものですから、単に理解しているだけにとどまらず、反射的に音程を読み、記譜することができ、また音として表現できるようになるまで繰り返し練習することが大切です。このような努力の積み重ねが、やがては楽典の総合的な理解につながります。たとえば問題の実施に際して、確実な理解をともなって出した答えと、偶然に見つけた答えとでは、仮にどちらも正解であったとしても、音楽的な基礎力においては大きな差となります。重ねて、テキストの内容の徹底した理解に努めることを勧めます。



次に、実際に **練習問題** にあたってみて、設問のされ方、種類や傾向などについても知っておく必要があります。出題の仕方は多少異なりますので、いろいろなケースに慣れておくことも大切です。理論に関する説明や解説を精読して、ある程度の理解が得られたならば、その段階にふさわしいテキスト本文中の練習問題や、それに該当する他の問題を解いてみて、もし、不足している学習上の事柄が見つければ、テキストを読み返し、より深い理解に努めてください。その上で再び練習問題に挑戦したり、場合によっては、実施済みの問題に関する再検討を試みることを勧めます。

以上のような過程を幾度も反復することが、楽典の徹底した理解につながります。このようにして、ある程度の理解が得られたならば、次の段階として、応用性の高い問題や実際の試験問題に挑戦し、**真の実力** を養うことが、無理のない形での楽典攻略法になると思います。

次に、この冊子の**問題集そのものの勉強方法** について以下の方法を勧めます。

まず、日頃接している楽譜を注意深くていねいに読み込む習慣を身に付けてく

ださい。

【課題Ⅰ】 に関しては、「明解新楽典」の前編を前述の方法で学習してください。また、その中で出題される音楽史(音楽基礎知識)については、「音楽基礎科目認定テスト実施要項」に掲載されている出題範囲を十分に理解してください。

【課題Ⅱ】 は鍵盤図を基にした出題が中心です。音程、音階、和音などについて応用性の高い問題が扱われています。これに対応するには、「異名同音的転換」の理解と習熟が何よりも要求されます。そのためにはテキスト後編の異名同音的音程や異名同和音などの項目を徹底して理解するように努めてください。また、調の関係や和音の響き(長三和音・短三和音…)や調判定などに関する問題も含まれます。困難な問題には繰り返し挑戦し、正解に到達できるまでがんばってください。

この冊子の過去問題集には模範解答が収録されていますが、原則として自分自身で答えを出してから参照してください。

* 「楽典」の出題傾向に最も適応しているテキストとして、『**明解新楽典**』(音楽之友社発行)を推奨します。



第104回 一楽典 課題 I

【I】 次の楽譜を見て、以下の問いに答えなさい。

String Quartet A Major
A. Zemlinsky, op. 4

(1) 次の文章の () の中から正しいものを選び、その番号 (1・2・3) を記入しなさい。

- イ) ④で示された楽語の意味は、
 1. 荘厳に
 2. 燃えるように
 3. 優美に } である。
- ロ) ⑬で示された音の異名同音は、
 1. es
 2. eisis
 3. dis } である。

ハ) ⑮で示された音の異名同音は、
 1. cis
 2. ces
 3. c } である。

ニ) ⑭で示された楽語の意味は、
 1. 甘美に
 2. 幻想的に
 3. 表情豊かに } である。

ホ) ⑯で示された記号の名称は、
 1. フェルマータ
 2. テヌート
 3. マルカート } である。

(2) ①・②……⑩で示された2音間の音程を答えなさい。

(3) 第1～3小節の「-----」で示されたヴァイオリンIのパートを、長3度高く、調号を用いず移調しなさい。

【II】 以下の文章の () 内にふさわしい語句を下欄から選び、その番号を記入しなさい。

1) バロック時代に (ア) の分野では、(イ) やオラトリオなど歌詞内容とその音楽表現が重視される音楽が誕生し、発展する一方で、(ウ) の分野では、(エ)、組曲、ソナタなどが多く作曲されるようになった。(エ) の代表的な曲に、(オ) の「四季」がある。

2) ロマン派時代には管弦楽の分野では、(カ) によって交響詩が確立された。交響詩の代表作に「(キ)」がある。ピアノの分野では(ク)と呼ばれる曲種が好まれるようになり、(ク)を集めた曲集に(ケ)の「子供の情景」や「(コ)」がある。

1. パツパ	2. ヘンデル	3. ヴィヴァルディ	4. ショパン
5. リスト	6. シューマン	7. 声楽	8. 器楽
9. ドイツ・リート	10. オペラ	11. 協奏曲	12. 性格的小品
13. 練習曲	14. 前奏曲	15. 謝肉祭	16. 冬の旅

第104回 一楽典 課題 I

【Ⅲ】

(1) 次の各音の上方、または下方に指示された音程をつくりなさい。
ただし、与えられた譜表上に記入すること。

イ) 上方につくりなさい。

1. 完全4度
2. 短6度
3. 長7度
4. 1オクターヴと減5度

ロ) 下方につくりなさい。

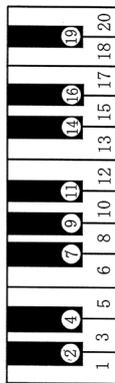
1. 増3度
2. 重減5度
3. 重減7度
4. 2オクターヴと短3度

(2) 次に与えられた各音を、それぞれ指示された音階構成音とする調を調号と主音で示しなさい。
ただし、短調は旋律短音階上行形によるものとする。

1. を下中音 (VI) とする短調
2. を下属音 (IV) とする長調
3. を中音 (III) とする短調

第104回 一楽典 課題Ⅱ

【Ⅰ】 次の鍵盤図を見て、下の問いに答えなさい。



(1) 鍵盤番号によって示された2音が、指示された音程や調の音階構成音であるとき、それぞれに該当する調名、または音程名を例にならって記入しなさい。ただし、短調は和声短音階の構成音によるものとする。

例

鍵盤番号	4 - 7
調名	変ホ短調
音程名	増2度

例解

鍵盤番号	4 - 7
調名	変ホ短調
音程名	短3度

1.

鍵盤番号	8 - 16
調名	変ホ長調
音程名	増5度

2.

鍵盤番号	10 - 19
調名	嬰ハ短調
音程名	減7度

3.

鍵盤番号	2 - 8
調名	変イ長調
音程名	減5度

(2) 鍵盤番号 7・9・11・13 を音階構成音として含む音階の調名を答えなさい。

ただし、短調は旋律短音階上行形の構成音によるものとする。

(3) 鍵盤番号 6・8・12・15 によって示された和音が V_7 の和音の構成音となるとき調名を答えなさい。

【Ⅱ】 次の文章中の□内に該当する調名、または調関係を示す語を記入しなさい。

(1) ニ短調 (d moll) の属調の平行調は、□である。

(2) ト長調 (G dur) の下属調の同主調は、□である。

(3) 嬰ハ長調 (Fis dur) の□は、嬰ニ短調の下属調である。

(4) ロ短調 (h moll) の属調の同主調は、変ト長調 (Ges dur) の□である。

【Ⅲ】 次の楽譜中：①、②、③、④、⑤、⑥で示された和音のひびきの種類 (長三和音・短三和音...) を答えなさい。

【Ⅳ】 次の旋律の調名を答えなさい。

第105回 楽典 課題 I

【I】 次の楽譜を見て、以下の問いに答えなさい。

SONATE (a moll)
R.Schumann op.105-I.

Mit leidenschaftlichen Ausdruck. ♩=68.

Violin

Piano

ハ) ㉔で示された音の異名同音は、dと、
 $\left. \begin{array}{l} 1. \text{ dis} \\ 2. \text{ es} \\ 3. \text{ eses} \end{array} \right\}$ である。

ニ) ㉔で示された記号の意味は、
 $\left. \begin{array}{l} 1. \text{ 強く、すぐ弱く} \\ 2. \text{ 一部分だけ特に強く} \\ 3. \text{ きわめて強く} \end{array} \right\}$ である。

ホ) ㉔で示された記号の名称は、
 $\left. \begin{array}{l} 1. \text{ マルカート} \\ 2. \text{ アクセント} \\ 3. \text{ フェルマータ} \end{array} \right\}$ である。

(2) ㉑・㉒……㉔で示された2音間の音程を答えなさい。

(3) 第2～4小節の「-----」で示された旋律を、減5度高く、調号を用いず移調しなさい。

【II】 以下の文章の()内にふさわしい語句を下欄から選び、その番号を記入しなさい。

1) バロック時代に(ア)で生まれたヴィヴァルディは、(イ)の基礎を築き、特に(ウ)奏法の発展に貢献した。この時代の(エ)で生まれたヘンデルは(オ)に渡り、組曲「水上の音楽」や「メサイア」などを作曲した。

2) 古典派時代に(カ)で生まれたハイドンは、「(キ)」の愛称で知られる弦楽四重奏曲や「(ク)」の愛称で知られる交響曲を作曲した。一方、ベートーヴェンは、「(ケ)」の愛称で知られる3つの弦楽四重奏曲や「(コ)」の愛称で知られる交響曲を残した。

(1) 次の文章の{ }の中から正しいものを選び、その番号(1・2・3)を記入しなさい。

イ) ㉔で示された記号の意味は、
 $\left. \begin{array}{l} 1. \text{ 強く、すぐ弱く} \\ 2. \text{ 一部分だけ特に強く} \\ 3. \text{ きわめて強く} \end{array} \right\}$ である。

ロ) ㉔で示された音の異名同音は、esと、
 $\left. \begin{array}{l} 1. \text{ eses} \\ 2. \text{ fes} \\ 3. \text{ feses} \end{array} \right\}$ である。

1. ピアノ	2. ヴァイオリン	3. チェンバロ	4. イギリス
5. イタリア	6. オーストリア	7. ドイツ	8. ジュピター
9. 熱情	10. 時計	11. 皇帝	12. 運命
13. ラズモフスキー	14. オペラ	15. 協奏曲	

第105回 一楽典 課題 I

【Ⅲ】

(1) 次の各音の上方、または下方に指示された音程をつくりなさい。
ただし、与えられた譜表上に記入すること。

イ) 上方につくりなさい。

1. 完全5度
2. 増1度
3. 短10度
4. 1オクターヴと減7度

ロ) 下方につくりなさい。

1. 増4度
2. 重減4度
3. 2オクターヴと増2度
4. 短7度

(2) 次に与えられた各音を、それぞれ指示された音階構成音とする調を調号と主音で示しなさい。
ただし、短調は旋律短音階上行形によるものとする。

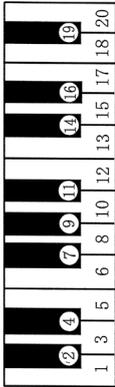
1. を中音 (III) とする短調

2. を導音 (VII) とする長調

3. を下中音 (VI) とする短調

第105回 楽典 課題Ⅱ

【Ⅰ】 次の鍵盤図を見て、下の問いに答えなさい。



- (1) 鍵盤番号によって示された2音が、指示された音程や調の音階構成音であるとき、それぞれに該当する調名、または音程名を例にならって記入しなさい。ただし、短調は和声短音階の構成音によるものとする。

例

鍵盤番号	9-18
調名	へ短調
音程名	度 減7度

例解

鍵盤番号	9-18
調名	へ短調
音程名	長6度 減7度

1.

鍵盤番号	9-13
調名	へ短調
音程名	度 減4度

2.

鍵盤番号	7-10
調名	嬰へ短調
音程名	度 増2度

3.

鍵盤番号	10-16
調名	ト短調
音程名	度 増4度

- (2) 鍵盤番号 5・7・10・13 を音階構成音として含む音階の調名を答えなさい。ただし、短調は和声短音階の構成音によるものとする。
 (3) 鍵盤番号 3・7・11 によって示された和音がⅢの和音の構成音となるとききの調名を答えなさい。

【Ⅱ】 次の文章中の□内に該当する調名、または調関係を示す語を記入しなさい。

- (1) 変ホ長調 (Es dur) の下属調の平行調は、□である。
 (2) 嬰へ短調 (fis moll) の属調の同主調は、□である。
 (3) ロ長調 (H dur) の□は、嬰へ短調の下属調である。
 (4) 嬰ト短調 (gis moll) の属調の平行調は、変ト長調 (Ges dur) の□である。

【Ⅲ】 次の楽譜中

を答えなさい。

で示された和音のひびきの種類 (長三和音・短三和音…)

【Ⅳ】 次の旋律の調名を答えなさい。

第104回 — 楽典 課題 I — (模範解答)

【I】

	イ)	ロ)	ハ)	ニ)	ホ)
番号	2	1	3	3	1

(1)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
完全 4度	長 2度	増 5度	減 7度	短 2度	増 1度	減 5度	増 11度	短 7度	短 10度
音程名	度	度	度	度	度	度	度	度	度

(1) オクターヴと短3度
(1) オクターヴと増4度

(2)

(3) スラーや強調、アーティキュレーションに関する記号の有無は不問。



【II】

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
7	10	8	11	3	5	14	12	6	15

【III】

(1) イ) 1. 2. 3. 4.

ロ) 1. 2. 3. 4.

(2)

1. 2. 3.

第104回 — 楽典 課題 II — (模範解答)

【I】

(1)

1.	鍵盤番号	8 - 16	順不同	10 - 19
	調名	ホ短調 e moll, e:	嬰ハ短調 b moll, b:	嬰イ短調 ais moll, ais:
	音程名	短 6 度	長 6 度	減 7 度

2.

鍵盤番号	2 - 8	順不同	
調名	ニ長調 D dur, D:	ロ短調 h moll, h:	変イ長調 変イ長調
音程名	減 5 度	増 4 度	

(2)

調名	変ニ長調 Des dur, Des:	嬰ハ長調 Cis dur, Cis:	嬰ハ短調 eis moll, eis:	変ホ短調 es moll, es:	嬰ニ短調 dis moll, dis:
----	-----------------------	-----------------------	------------------------	----------------------	------------------------

(3)

調名	ハ長調 C dur, C:	ハ短調 c moll, c:
----	------------------	-------------------

【II】

調名または調関係	(1) ハ長調 C dur, C:	(2) ハ短調 c moll, c:	(3) 下屬調の平行調	(4) 異名同音調
----------	----------------------	-----------------------	-------------	-----------

【III】

ひびきの種類	① 減七の和音	② 長三和音	③ 短三和音	④ 増三和音
--------	---------	--------	--------	--------

【IV】

調名	(1) ニ長調 D dur, D:	(2) 変ホ長調 Es dur, Es:	(3) 変ニ長調 Des dur, Des:
----	----------------------	-------------------------	---------------------------

第105回 一楽典 課題 I (模範解答)

【I】

(1)

イ)	ロ)	ハ)	ニ)	ホ)
2	3	3	1	2

(2)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
短 2 度	短 9 度 もしくは 短 2 度	長 7 度	減 3 度	減 7 度	短 2 度	長 6 度	増 5 度	2 オクターブと短 3 度	減 5 度

(3) スラーや強弱に関する記号の有無は不問。



【II】

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
5	15	2	7	4	6	11	10	13	12

【III】

(1) イ) 1. 2. 3. 4.

ロ) 1. 2. 3. 4.

(2)

1. 2. 3.

第105回 一楽典 課題 II (模範解答)

【I】

(1)

鍵盤番号	9 - 13		7 - 10	
調名	ハ 短調 a moll, a:	イ 短調 a moll, a:	嬰ハ 短調 b moll, b:	嬰イ 短調 ais moll, ais:
音程名	長 3 度	減 4 度	短 3 度	増 2 度

(2)

鍵盤番号	10 - 16	
調名	ホ 長調 E dur, E:	嬰ハ 短調 cis moll, cis:
音程名	増 4 度	減 5 度

(3)

調名	ト 長調 G dur, G:	ホ 短調 e moll, e:	嬰ハ 短調 cis moll, cis:
----	-------------------	--------------------	-------------------------

(4)

調名	ロ 短調 h moll, h:	変ホ 短調 es moll, es:	嬰ニ 短調 dis moll, dis:	ト 短調 g moll, g:
----	--------------------	-----------------------	-------------------------	--------------------

【II】

調名または調関係	(1) 短調 f moll, f:	(2) 嬰ハ 長調 Cis dur, Cis:	(3) 同主調	(4) 異名同音調
----------	----------------------	----------------------------	---------	-----------

【III】

ひびきの種類	① 増三和音	② 減七の和音	③ 長三和音	④ 短三和音
--------	--------	---------	--------	--------

【IV】

調名	(1) 変ロ長調 B dur, B:	(2) ニ長調 D dur, D:	(3) 変ロ短調 b moll, b:
----	-----------------------	----------------------	------------------------